

令和6年度 江別市立小学校及び中学校通学区域審議会 会議録（要点筆記）

日 時：令和6年10月11日（金）15時00分から15時50分まで

場 所：江別市教育庁舎1階 大会議室

出席委員：近江さつき委員長、千葉則理副委員長、竹内寿朗委員、佐藤和恵委員、小田拓司委員、
安澤麻理子委員、佐々木一典委員、田中美由紀委員、舟崎洋史委員、嶋中千史委員、
長山暁子（計11名）

事務局：教育部新山次長、学校教育支援室堂前室長、学校教育課稲田課長、教育部総務課山崎課長、
学校教育係坂口係長、原田主任、鶴飼主事（計7名）

資料

資料1：報告事項ア 令和6年度学校選択制に係る入学状況について

資料2：報告事項イ 通学区域審議会における課題等について

審議会概要

1 委嘱状交付

2 教育長あいさつ

3 開会

（1）委員の紹介

（2）副委員長の選出

（3）報告事項

ア 令和6年度学校選択制に係る入学状況について【資料1】

○坂口係長

通学区域審議会の概要、学校選択制の導入の経過と概要について説明。令和6年度の学校選択制に係る入学状況について報告。

○質問・意見

なし。

イ 通学区域審議会における課題等について【資料2】

○坂口係長

- ・平成22年から令和5年までの通学区域審議会における主な審議経過について説明。
- ・近年の審議会の意見等を踏まえた以下の課題について、現状・課題・方向性を説明。
 - ①学校選択制と小中一貫教育との整合性
 - ②通学区域の設定（江別第一小学校の分散進学等）
- ・検証年（令和8年度）の審議事項の見通しについて説明。
- ・検証に関するアンケート調査の項目案を説明。

○長山委員

学校選択制による入学者数が令和5年度よりも増加しているが、今後も増えていく傾向があるのか教えていただきたい。

○坂口係長

過年度の利用者推移を参考に説明させていただきます。資料の1ページをご覧ください。下段にございます学校選択制利用者割合推移というグラフでは、過去10年間の利用者割合を示しております。現在は令和3年度から増加しているところではありますが、年度によって上下するものと考えております。

○長山委員

学校選択制は利用者が特定の学校に集中する、または特定の学校から減少してしまうと困るということでしょうか。

○坂口係長

特定の学校にのみ希望が集中したことが要因の1つとなり、学校選択制を廃止した市町村もあると聞いております。受け入れる学校側にも教室数には限りがありますので、学校選択制を適切に運用していくためにも、定期的に検証しているところであります。

○竹内委員

市民の皆さまや保護者の方に対して、小中一貫教育における目指す子ども像について、どのように周知しているのでしょうか。

○坂口係長

資料として配布しております小学校案内または中学校案内の1ページをご覧ください。こちらは市内在住の新1年生や転入者に配布している冊子ですが、江別市の学校教育が目指すものとして基本理念と目指す子ども像が記載されております。江別市の目指す子ども像としては、夢を持ち、夢を語り、夢の実現に向けて行動する子どもと記載させていただいているところであります。下段には小中一貫教育についても記載しております。こちらの内容につきましては、「江別市の小中学校」というパンフレットや市ホームページ、広報えべつ等で周知をさせていただいているところであります。

○千葉副委員長

審議会における課題等について、江別第一小学校の分散進学に関する説明がありましたが、小中一貫教育においては江別第一小学校がやりにくい部分があると感じておりますが、それぞれの中学校区の目指す子ども像の前提には、江別市全体で共通の目指す子ども像があります。また、江別第一中学校区と江別第三中学校区では、江別第一小学校が困らないようにスタンダードを揃える動きも見られます。

学校選択制については、児童生徒数が増減することで影響を受ける立場ではありますが、希望する部活動や魅力的と感じる学校へ進学できることは、教育の幅を広げる可能性があるかと認識しております。通学区域や学校選択制について、子どもたちや保護者の方から学校へ不満は届いていないという現状をお伝えできればと思います。

(4) その他

○事務局

特になし。

4 閉会